



表現者のコラム Vol.1 七味まゆ味 (柿喰う客/七味の一味)

【豊潤な舞台を産み出すために必要な土壌】

『最近の小劇場演劇界』をテーマに考えていくうちに、お客様を増やす、お客様を育てる、それが私達が考えねばならない一番大きなことだろうと思えてきた。お客様がいないことには、舞台を作って上演しても意味がない。今は需要と供給のバランスがだいぶ崩れていると思う。お金面でも精神面でも、土壌をしっかりさせなければ。それを作るためにはもはや何か大きな仕掛けが必要なのだと思うが、どうしたら仕掛けられるだろうか。娯楽の多様化、溢れる情報の中で、個人の興味を観劇に向けるためには、きっと今の時代の特性を生かした何かを編み出すしかないのだと思う。この編み出す作業がお金になれば、このことを真剣に考えていける知恵ある人が増え、何かを見出せるのかもしれない。しかし何か一つが成功したとしてもそれは単発のもので、『小劇場界全体』の活性化にはならない可能性も大きいだろうと思う。私達のように演劇をすでに愛している人達の力だけじゃなく、まだ演劇に触れたことのない愛したことのない人達を巻き込み、演劇って大切だし凄い面白くて強いものなんだ、ということに気付いてもらって、国にも政府にもわかってもらって、心の綺麗な権力を持った人達が、悪いことのためではなく、ちゃんと良いことのために、どんどんと演劇を『小劇場演劇界』を利用してくれたら良いのと思う。利用して、ちゃんとお金にして、演劇に秀でた人達と、観劇に秀でた人達を育ててくれればと願う。そのためには、いくらでも協力したい。ふと、観劇三昧という会社が演劇関連のグッズを取り扱っていたりアプリで芝居が観れるサービスを出していることを思い出す。あれも今の時代の特性を生かした一つの挑戦だと思う。お客様と一緒に、お客様を巻き込んで演劇界を盛り上げていける仕組みを作る挑戦をしていくことが、今後も大切なんだと思う。



七味まゆ味
(柿喰う客/七味の一味)



日韓母国語演劇「あげまんと紳士」

作 池田直隆

脚色 横田修

演出 あげまんと紳士チーム

韓国版リライト ミン・ボッキ (劇団チャイム)

出演 七味まゆ味 (柿喰う客/七味の一味)、岩崎正寛 (演劇集団 円)

木下菜穂子、加藤友子、リュ・ジエソ (劇団チャイム)、カ・ヒ



【解説】

日韓母国語演劇シリーズも六作品となった。笠井友仁さん (エイチエムピー・シアターカンパニー) が演出した『真夜中のカウガール』に始まった、韓国俳優は韓国語を、日本人俳優は日本語を話し、対話を成立させる形式で行われてきた。表現者工房では4作目『二十世紀からのジェット・セッター』5作目『当たりの相続人』が上演されてきた。今回は、ソウル、東京、大阪の俳優が今回も大阪の表現者工房に集結し合宿稽古を決行した。また、赤星マサノリの字幕と組み合わせた映像と、加藤友子の音響を使わないシロホンの生演奏も好評だった。



市民参加リーディング「チェーホフ短編集って？」

演出・脚色 桂ゆめ (俳優座)

出演 坂口修一、桂ゆめ (俳優座)

飯田紀史、乾佐和子、井上明彦、加藤友子、川口泰三、木下克美、桐生紗衣 (グレース芸能プロダクション)、SANA、シャンティ詩乃、長島美夏子 (ジャパントータルエンターテインメント)、西川靖夫、meeya、森田 歩 (神戸大学演劇研究会はちの巣座)、YUME、吉儀ちさと、良知 由扶子



【解説】

俳優座の桂ゆめさんのクラシック・リーディングも、チェーホフの『桜の園』、シェイクスピアの『ハムレット』に続く三度目の上演となった。毎回、三、四ヶ月前のオーディションから始まり、一月ほど前のワークショップとキャスト決定、そして、一週間前からの稽古、そして本番となる。今回は小学生の出演者が三人もいて、賑やかな稽古場だった。大家族の旅芸人が短編を演じていくイメージに、歌や躍りが加わり、最後まで退屈させないゆめさんの演出、出演者の演技に、観客からも「楽しかった！」という声が聞こえてきた。